

虹の架橋 検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

今月の題字 中村正義さん (大間々町小平)

みどり市PTA連合会の会長として活躍した後、今年の4月からは「小平の里」の所長に就任。コロナの逆風の中で小平の里の活性化と地域づくりに奮闘しています。

虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月1日発行する地域新聞です。



第299号

令和2年7月1日発行
企画・編集 松崎 靖
発行 (株)足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380 (〒376-0101)
Tel 0277-73-1212
Fax 0277-70-1066

寛永六年(1629)、神明宮の初代・大楽院勝尊は五穀豊穡と悪疫退散を願って京都の八坂神社から牛頭天王(ごずてんのう)のご分霊を大間々三丁目(今の三丁目集会場)に祀り、旧暦の六月二十四日(現在の八月二日)にご神霊の渡御を行いました。これが大間々祇園祭りの始まりであり、それ以来、三百九十一年の歴史を誇る大間々祇園祭りは自然災害や戦争、社会情勢の変化などの危機を乗り越えて今日まで続いています。

小耳にはさんだ
いい話
(文責・菊)《299》



みどモス、ぐんまちゃんマスク

「みどモス」を応援しよう！
ゆるキャラグランプリ投票開始
2011年にはじまった「ゆるキャラグランプリ」は今年が最終回になります。「くまモン」がグランプリに輝いた2011年は東日本大震災が発生し、日本中が大きな悲しみに包まれていました。そして、今年は新型コロナウイルスという大きな試練。でも人間の持つ免疫力は心の有り様によって強くも脆くもなるものです。「夢をもつて、前を向いて、明るく元気に」、そんな気持ちに

大間々祇園祭の歴史

大間々祇園祭りが始まって六十年後の寛政2年(1790)12月に発生した大間々の大火では、それまでの神輿が焼失しましたが、氏子たちはすぐに江戸で新しい神輿を注文し、翌年の神輿渡御も例年通り行われたと古文書に記されています。明治十九年はコレラが大流行していたために大間々祇園祭りは二カ月延期されました。コレラの研究をしていた北里柴三郎がドイツに留学したのもこの年であり、新型コロナウイルスが発生した今年と似たような社会情勢だったのかもしれない。明治四十五年の大間々祇園祭

足利屋でみどモスマスク発売！
足利屋では、みどり市のマスコットキャラクター「みどモス」と群馬県のマスコットキャラクター「ぐんまちゃん」の刺繍入り布マスクを製造販売しています。洗って何度でも使えるスグレモノで国産のダブルガーゼとソフト晒を使用。色はピンク、ブルー、ネイビー、グリーン、白の5色。サイズはS、M、Lの3サイズ。足利屋、アスクの他、大間々駅前観光案内所や小平の里、水沼駅温泉センターでも好評発売中です。

させてくれるみどり市のマスコットキャラクター「みどモス」は、去年のゆるキャラグランプリで初出場ながら1152体の中で4位という好成績でした。今年はグランプリを目指してみんなで投票しましょう。投票は7月1日から9月25日まで。パソコンやスマホから毎日投票ができます。



(みどモス投票ページ)

りとは本番直前の七月三十日に明治天皇が崩御されるといふ事態になり、学校は休業になり、家々には弔旗が掲げられて哀悼の意を表しました。このような大喪の中でも八坂祭典は歌舞音曲を控えて挙行されました。昭和二十年の大間々祇園祭は半月後に終戦を迎えるという時期でした。山車や神輿を出して八坂祭典が執り行われ、その年の八月二日、三丁目の山本うどんやさんの前から撮った写真には大勢の人ごみの中を山車や神輿が行列している様子が写っています。今年の大間々祇園祭は新

中野ちよは、大正八年四月十四日、前橋市国領町の和菓子屋の娘として生まれ、昭和七年、群馬県立前橋高等学校一年の時に「紙風船」の絵を描きました。昭和十七年に足利屋二代目の松崎福司と結婚。昭和二十七年四月五日に長男・靖を出産して三時間後に亡くなりました。ちよが松崎家に嫁いできた時に花嫁道具と共に持ってきた二十一点の絵は足利屋が創業百年を迎える節目に物置から偶然発見されました。九十年前に描かれた絵を通して家族とは、人間とは、生きるとは何かを考えています。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の絵《299》
中野ちよ『紙風船』



昭和20年8月2日の大間々祇園祭

今、我家の横の路地のアジサイが咲いています。隣人が長い年月をかけて挿し木をして増やしてきたアジサイと、全長四十メートル近い大谷石の古い石蔵の建物が見事にマッチし、インスタ映えする撮影スポットにもなっています。雨上がりの朝、青い空と色鮮やかなアジサイが水たまりに映り、爽やかな光景を作り出しました。アジサイは小さな花が集まって咲いているように見えることから「和気あいあい」「家族」「団欒」といった幸せな家庭を連想させる花言葉もあるそうです。

靖ちゃん日記

令和二年六月二十日(日)
五月に出来上がったばかりの娘夫婦の新居の軒下にツバメの若夫婦が巣を作り、五個の卵を産み、今日そのうちの一個が雛になった。ツバメは遠い南の国から三千キロ、五千キロも海を渡って日本に飛来。ツバメは人間のことがよくわかっている、巣をつくる時に、そこに住む人を観察し、子育てに協力してくれそうなきを運んで巣を作るという。娘夫婦はカラス除けの黄色いプレートを買って、巣の近くに付け、孫の琉馬と一緒に毎日ツバメの子育てを観察している。昔から「ツバメが巣をつくる家は火事にならず繁栄する」と言われている。年上の女性とつき合っている愛人の若い男のことを「若いツバメ」と言う。でもツバメは社会では、独身の「若いツバメ」より、結婚して定年のあるツバメの方が人気があるのだという。熟年ツバメになって若いとは、(倒)を回ってみたい。

第三百号は八月一日(土) 発行予定です。

♡ やつちゃんの似顔絵提供…ひさかさん